

# 社会科 授業構想

平成26年10月10日(金) 5校時 1年2組教室  
 1年2組(男子16名, 女子17名, 計33名)  
 授業者: 教諭 佐々木淳子

1 単元名 第3章 中世の日本と世界 1節 世界の動きと武家政治の始まり

2 教材観

武士が台頭して鎌倉幕府が成立し、武家政権への転換が図られて公家をしのぐようになり、その支配が次第に全国に及ぶようになっていった。特に、承久の乱後に鎌倉幕府の支配体制が強固になったことを理解することは、江戸時代まで続く武家政権の特色を把握するためにも適切な教材であると考えた。

3 生徒の実態

本単元に登場する人物や語句については、小学校でも学習してきたためよく知っているが、鎌倉幕府が武士による政権でありそれが長く展開されたことや武家政権の特色などについてはあまり身に付いていない。

4 本時について

(1) 本時の学習 4 御家人は団結せよ

(2) 本時のねらい

①承久の乱についての資料から、幕府の支配が強化していったことを読み取ることができる。

【資料活用の技能】

②幕府の支配体制が強化した背景には何があるか説明できる。 【社会的な思考・判断・表現】

(3) 本時における「わかる生徒の姿」

承久の乱をきっかけに、武家政権による支配が拡大していったことを、様々な資料から読み取り、適切な語句を用いて説明することができる。

(4) 展開構想 ○→主な学習内容 ・→(予想される)生徒の反応 ①, ②→評価場面

次のステップ	学習内容と予想される生徒の反応	指導上の留意点	わかり合いの場
導入	○北条氏の執権政治が行われた背景と承久の乱の存在を理解する。	将軍に代わって執権が政治の中心になった背景をとらえさせる。	全体
学習課題 承久の乱によって幕府の支配体制はどうして強くなったのか。			
第1ステップ	○予想をたてる。 ・幕府が戦いに勝ったから。 ・幕府に味方する人が多かったから。 ○政子の演説が何を訴えているかを読み取る。	主従関係の存在をとらえさせる。	個人
第2ステップ	○承久の乱後に行った幕府の政策(守護, 地頭の任命, 朝廷に対する処分, 鎌倉幕府のしくみなど)を資料から読み取る。	資料を読み取らせ, 記述させる。 ①学習シート	個人→4人組 全体
ラストステップ	○承久の乱後の幕府の支配体制について考える。 ・幕府の支配が全国に及び, 強化したのはなぜか適切な語句を用いてまとめる。	幕府の支配が強化した理由を第1, 第2ステップをふまえて適切な語句を用いて記述させ, 発表させる。 ②学習シート, 発言	個人 全体